

教科(科目)	芸術(音楽 I)	単位数	2単位	学年(学類)	1学年
使用教科書	教育芸術社『MOUSA1』				
副教材等	プリントなど				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自分と社会の関係性を見つめ、他と協働しながら取り組む力を育成します。</p> <p>②複雑化する社会や地域に関心を持ち、様々な考えを受け入れる力を育成します。</p> <p>③好奇心をもって自ら学び続け本質を見極めようとする姿勢と力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①あらゆる進路に対応できるカリキュラムを設定します。</p> <p>②少人数制により個々にあったきめ細かな指導を行います。</p> <p>③地域と連携し、地域資源を活用した教育活動を行います。</p> <p>④生徒が興味をもった題材を地域の大人が伴走しながら探究するプロジェクト学習に取り組めます。</p>

2 学習目標

<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の文化・歴史を理解するとともに、音楽表現に必要な技能を身につけるようにする。基礎的なことに加えて応用的な内容まで踏み込んだ展開を行自分なりの音楽表現を工夫することや、音楽を評価し音楽の良さを感じ取れるようにする。歌唱活動では歌い方の基本を確認し、様々な楽曲を通して他の各分野と関連付けながら特徴や表現を学ぶことを目指します。</p> <p>(2) 幅広い活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽により生活や社会を明るく豊かにしていく態度を養う。器楽演奏の実習では基本的な音楽的知識・技能を着実に身に付けながら、表現する楽しさを味わうことを目指します。</p>
--

3 指導計画

月	単元	教材又は項目	学習活動(指導内容)	評価の方法	時間
4~5	歌い方の基礎を勉強しよう (歌唱・創作)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校歌</li> <li>○Ave Maria</li> <li>○翼をください</li> <li>○花</li> <li>○その他</li> </ul>	個々に応じた発声を確認しながら歌う。ハーモニーが綺麗に歌えているか確認する。(他のグループに聴いてもらう。タブレットで録音して確認する)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技発表</li> <li>・ワークシート</li> <li>・授業の取組</li> <li>・提出物</li> </ul>	25
6	クラシック音楽を鑑賞しよう (鑑賞)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交響曲第9番 二短調op.125 第4楽章</li> <li>○交響詩&lt;ティル・オイレンシュピーゲル&gt;の愉快ないたずら</li> </ul>	声楽とオーケストラによる響きや表現を味わう。また時代的背景を理解し曲の情景をイメージする。タブレット等を使用し内容を調べ、クラスルームで提出する。		
7~8	文化祭に向けてプログラムを考えよう (歌唱・器楽)		出演形態を考える(独奏・独唱・アンサンブル・合唱・合奏など)。プログラム作成からリーダーの選出、リハーサルの計画まで立案する。		
9・10・11	楽器の基礎・ギター、ドラムを学ぼう (器楽・創作)	教科書から <ul style="list-style-type: none"> <li>○日曜よりの使者</li> <li>○バンドアンサンブルに挑戦</li> </ul>	ギターダイアグラムを見ながら正確に音が出るか確認をする。綺麗な音を出すために重要なことは何か？研究する。ドラムセットで基礎となるエイトビートのリズムを覚える。		25
	文化祭に向けて練習を発展させよう (歌唱・器楽)		個性豊かに楽器表現を創意工夫しながら、アンサンブル活動の楽しさを味わう。		
12・1	日本音楽の基礎を学ぼう 琴・三線 (器楽・創作)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安波節</li> <li>○てんさぐぬ花</li> <li>○海の声</li> <li>○さくら</li> </ul>	日本の伝統文化を感じ取り、演奏方法を勉強する。三線の指使い(勘所)を正確に勉強する。周囲とアンサンブルが出来ることを目指す。		
2・3	コンサートを開こう (歌唱・器楽・創作)		1年間の学習のまとめとしてコンサートを実施する。グループで重唱や合唱や器楽アンサンブルをしながら、音楽活動の喜びや楽しさを味わう。		20

「1単位時間は50分」 70

4 評価の観点の趣旨

A・表現(歌唱・器楽・創作)

観点	(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。</li> <li>・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。</li> <li>・様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした歌唱表現、器楽表現、創作表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じ受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現、器楽表現、創作表現を創意工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・協働的に歌唱・器楽・創作の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

B・鑑賞

観点	(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。</li> <li>・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。</li> <li>・我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じ受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

5 評価方法

観点	(1) 知識・技能(35%)	(2) 思考・判断・表現(35%)	(3) 主体的に学習に取り組む態度(30%)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技発表での技能や表現の分析</li> <li>・ワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取組の観察</li> <li>・実技発表での技能や表現の分析</li> <li>・ワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や実技発表への取組の観察</li> <li>・ワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。</li> </ul>

6 担当者からの一言

<p>中学で身に着けた歌唱や読譜の基本をさらに発展させます。また、さまざまな楽器の実習を体験してもらいます。</p> <p>実習教科なので、取り組み(参加状況)を重視します。1年間を通じて素直な気持ちでいろいろなことを吸収して、人前で堂々と表現する力を身に付けてほしいと思います。</p>
--